

アーツカウンシル東京 令和3(2021)年度 第2回 スタートアップ助成 対象事業決定のお知らせ

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京は、令和3年度にスタートアップ助成を新設し、東京の芸術シーンで活動を展開していこうとする新進の芸術家や芸術団体等がチャレンジする新たな芸術活動を支援しています。

このたび、令和3(2021)年度 第2回 スタートアップ助成の対象事業を決定いたしました。

今回は、313件の申請があり、23件を採択いたしました(採択率7.3%)。助成予定総額16,507千円です。

■ 令和3(2021)年度 第2回 スタートアップ助成 申請・採択件数

	申請件数		採択件数	
	個人	団体	個人	団体
音楽	41	63	2	4
演劇	21	52	0	3
舞踊	6	21	1	3
美術・映像	31	22	1	2
伝統芸能	7	12	2	1
複合	12	25	3	1
合計	118	195	9	14

・対象期間：2022年1月1日以降に開始し、2022年9月30日までに終了する事業

■ 令和3(2021)年度 第2回 スタートアップ助成 採択事業 一覧

申請313件、採択23件

(単位:千円)

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請者名	事業名	助成金 交付決定額
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	TRIOVENTUS	TRIO VENTUS リサイタルツアー 東京公演	1,000
				一般社団法人三味線表現協会	音楽公演事業 ― VIVA Shamisen 2022 (仮)	1,000
				インペトウス・サクソフォン・アンサンブル	インペトウス・サクソフォン・アンサンブル 第二回演奏会	999
				BONUMMUSICAMEMBRA	第二回主催定期公演 Abend Musik Vol.1	1,000
			個人	三好すみれ	Radice VIOLA ～これからの伴奏芸術のためのコンサート・シリーズとアーカイブ～ (仮)	300
				薬師寺典子	こえのリサイタル Vol.2 ～歌・クラ・打楽器トリオによるシアターミュージックの世界～ (仮)	300
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	ダダルズ	グミニーズちゃんが盗まれた! (仮)	1,000
				Stokes/Park	Stokes/Park 『フゴッペ洞窟の翼を持つ人』	1,000
				TeXi's	水に満ちたサバクでトンネルをつくる	910

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請者名	事業名	助成金交付決定額
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	和太鼓＋ダンスユニット＜まだこばやし＞	和太鼓＋ダンスユニット＜まだこばやし＞単独公演「それぞなる（仮）」	1,000
				オータムプロダクションズ	仁田晶凱と高橋宏治による振付と作曲の共同制作プロジェクト（仮）	1,000
				1e-48	1e-48 2022 project	1,000
			個人	AKIRA	現代を表現した作品(仮)	300
美術・映像	都内での芸術創造活動	都内	個人	木村和平	石と桃(仮)	300
	国際的な芸術交流活動	都内および海外	団体	大道寺超実験倶楽部	日記映画『La mia quarantena／わたしの隔離期間』『Quando d'estate mi dimentico dell'inverno/夏には冬のことをすっかり忘れてしまう』東京／チェゼーナ／香港上映会	1,000
		都内	団体	合同会社UPN	参加型展覧会「Masking/Unmasking Death 死をマスクする／仮面を剥がす」	1,000
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	団体	蒼天	第4回 蒼天公演（仮）	1,000
			個人	初代常磐津千寿太夫	常磐津節の流派を超えた若手演奏家の名曲継承プロジェクト（仮）	198
				穂積大志	現代邦楽作品のオンライン並行配信公演、三味線名曲選コンサート	300
複合	都内での芸術創造活動	都内	団体	エリア51	虫の瞳（仮）	1,000
			個人	小宮知久	声で映像を生成する。《VOX-VIDEOGENESIS》	300
				草薙樹樹	JuJu Kusanagi Solo Show『In Other Words』 / 草薙樹樹 個展（仮）	300
				清水美紗都	映像作品『YELLOW』	300

■ 令和3(2021)年度 第2回 スタートアップ助成 採択結果の概況

全分野にわたる傾向として、申請者や申請団体の構成員の年齢層は20代から30代が中心となっており、第1回に比べ団体の割合が増加し、6割強が団体からの申請となりました。第1回で不採択となった事業の再申請も1割程度あり、その中で採択に至ったものもありました。申請事業内容は、都内での事業を初めて企画・主催する新進の個人・団体によるトライアルの事業、過去数回の実績を経て企画内容やキャリアの拡充を図るステップアップの事業、さらに、新たな団体が新しい視点での企画や創作に着手する事業など、積極的なチャレンジを行う事業を採択しています。

また、事業の目指すべき目的が明確であり、それを実際にどのように具体化するのか示されており、実現にあたっての予算やスケジュールが適切に計画されているものが採択となっています。一方、創作の着想には独自性が認められるものの、事業の目的と事業内容が適合していないものや、出演者やプログラム内容に未定要素が多く事業の具体性に欠ける申請は、採択には至りませんでした。なお、不採択となった事業を再度申請することも可能です。具体的に計画の練られた意欲的な申請に期待します。

● 音楽分野

第1回に引き続き、クラシック関連の申請比重が高く、割合として全体のおよそ半数を占めました。特に多かったのは古典作品をプログラムの中心に据えた小編成アンサンブルの演奏会企画です。またオペラ制作に関する意欲的な取り組みも目立ちました。104件もの申請があった音楽分野において採択に至ったのは、事業の目的に対する具体的な企画内容の位置づけが明確であり、且つそれを実現するための工夫について現実的なアイデアの言及がなされていた事業案です。採択対象には第1回からの再チャレンジ申請も含まれました。再申請においては、構想の完成度を高める視点からのブラッシュアップと、文章の丁寧な推敲を経ての再挑戦が期待されるところです。

● 演劇分野

第1回と比べ、20代から30代の申請者が増え全体の7割を占めました。ウィズコロナ時代を見越した上演の形を模索する事業や、集まらない不自由さを逆手にとって創作の可能性を模索する意欲的な事業がみられました。

採択されたのは、事業を計画するに至った経緯や背景、既存の戯曲等を使用する場合は選定の理由、それをどのように作品に昇華させようとしているのかなどが、独自の目線で丁寧に言語化されている事業です。また、目的とそれを達成するための具体的な取り組みが、事業内容と高いレベルで一致していることも採択事業に共通しています。企画としては魅力的な申請が多くありましたので、再申請する場合は、アイデアや問題意識と表現の間を丁寧に言語化し、申請時点で予定や未定項目が多い事業については特に申請事業の核となる点の具体性を高めていただくようご留意をお願いします。

● 舞踊分野

27件中4件が採択となりました。第1回と比べると20代の申請者の割合が増え、実績の少ない若いアーティスト・団体からの申請が増えています。内容としてはコンテンポラリーダンスが最も多く、次いでストリートダンス、フラメンコ、ジャグリングの事業が多くみられました。事業計画の練られた実現性の高い申請が増えた一方で、自身の表現方法に関しての言語化が足りない申請も複数みられました。意欲的な申請の中には、自身の活動を継続・維持するための申請も一定数みられましたが、本助成の趣旨から申請者にとって新たな挑戦となっている事業が採択されています。また、第3回公募の対象期間に該当する申請に関しては、計画をブラッシュアップしての再挑戦が期待されます。

● 美術・映像分野

53件中3件の採択となり、厳しい採択率となりました。前回に引き続き申請者の年代は20代から30代が全体の3分の2となりました。一定期間の活動予定を示すだけで個別の事業の内容や趣旨を十分に示していない申請や、展示や公開をするというだけで具体的なコンセプトや手法が示されていないといった具体性と説得力が乏しかった申請は採択に至りませんでした。結果的に、公募要件を満たすだけでなく、ガイドラインに示された「審査の観点」をすべて一定以上の水準で満たしたうえで、申請者の研究や研鑽の延長線上から一歩飛び出た創造性を持つ意欲的なプランを具体的に示した企画が採択されています。

● 伝統芸能分野

雅楽、能楽、常磐津節、落語、日本舞踊、創作邦楽、現代邦楽、民謡など幅広い種目から申請がありました。第1回目と同様に20代から30代の申請が約半数にのぼり、全申請の実施場所が都内で国際的な芸術交流活動の申請がなかったことは引続きコロナ禍の影響と思われます。独り立ちして自主開催する演奏会や、流派や種目を横断し伝統芸能に新たな動きをもたらす試みが目立ち、第1回目から再チャレンジして採択に至った事業もありました。事業の目的と内容が合致しないもの、曲目や出演者の具体性や実現性に欠くものは採択に至りませんでした。また、後継者や同世代の観客の不在に対する危機感を動機とする申請が多くありましたが、創造活動においてその課題にどのように取り組むのか、具体的に示されている事業が採択となっています。

● 複合分野

「核となる分野を特定できない芸術活動」を対象とする複合分野には27件の申請がありました。申請内容は多岐にわたっていますが、複数領域のアーティストが協働する事業として、全体のコンセプトや統一イメージだけでなく、パフォーマンスの具体的な内容や演出まで計画されている事業が採択となっています。パフォーマンス、主体造形、映像等を融合した体感型の作品、音楽家とダンスのコラボレーション、自動生成される楽譜をライブで歌唱する映像の制作活動等が採択されています。

■ 審査プロセス

以下の審査プロセスによって、採択を決定しています。

提出された申請書類をアーツカウンシル東京が精査し、事前調査や外部有識者の意見を踏まえて企画助成課長が評価案及び採択原案を取りまとめます。その後、アーツカウンシル東京機構長の審議を経て、公益財団法人東京都歴史文化財団が決定します。

令和3(2021)年度 第3回 スタートアップ助成の申請受付期間は2021年12月21日(火)～2022年1月11日(火)消印有効です。現在、公募ガイドラインを公開しています。

申請書類は12月21日(火)よりダウンロードできます。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/what-we-do/support/grants/startup-grant-program/50315/>

＜本事業に関するお問い合わせ＞

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画室 企画助成課 担当：玉虫、大越
TEL：03-6256-8431 E-mail：startup@artscouncil-tokyo.jp

＜本リリースに関するお問い合わせ＞

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 広報担当：糸園、圓城寺
TEL：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp